

# 「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 30 年 4 月 2 日

仕事の内容	在宅医療介護連携推進事業				
担当部署・課長名	高齢介護	課	地域包括ケア推進	係	課長名 伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の推進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	款 4	地域支援事業費	項 2	包括的支援事業・任意事業費	目 6	在宅医療・介護連携推進事業費	事業 1	在宅医療・介護連携推進事業費	
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 医療と介護の両方を必要とし、在宅療養を希望する高齢者					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) →人数			
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、市及び地域における医療・介護関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制の構築。					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) →不明			
	③ そのために何をしましたか。 ①在宅医療・介護連携推進のための地域における多職種連携研修会を実施した。 ②在宅医療介護連携推進部会を実施した。 ③平成29年度から在宅医療介護連携支援センターを設置し医療機関及び介護事業所からの相談を受け付けた。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) → ①2回 ②3回 ③2か所で計1,731件の相談を受け付けた(相談件数:いもくほ681件、なんがい1,050件)。			
2 指標の推移			単位	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成31年度目標	
	対象指標	①の数値	人	不明	不明				
	成果指標	②の数値	—	不明	不明	不明			
	目 標	②の目標値 目標値設定の考え方				—	—	—	
	活動指標	③の数値	回	①3回 ②0回	①2回 ②3回	①2回 ②3回 ③1,731件			
3 経費	事業費		円	83,868	83,868	3,805,838	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,233,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成26年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)		
	財源	一般財源	円	16,354	16,354	475,729			
		特定財源	円		67,514	3,330,109			
		(うち受益者負担)	円						
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人			0.2			0.5
		所要人数(再任用)	人						
職員人件費(再任用以外)		円		1,646,600	4,116,500				
	職員人件費(再任用)	円							
	事業費+人件費	円	83,868	1,730,468	7,922,338				
この仕事における市の裁量			市の裁量は大きい						
4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 平成27年4月から、在宅医療介護連携の推進を目的として開始。平成29年度から在宅医療介護連携支援センターを市内2か所に設置した。								
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 多職種間の関係構築が進んでいる。								
5 市民等の意見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について なし。								

仕 事 の 内 容	在宅医療介護連携推進事業			
担当部署・課長名	高齢介護	課	地域包括ケア推進	係 課長名 伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)			
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換 ⑦後援・場の提供 ⑧その他( )	
(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。				
7 課 題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。			
	多職種の方々の意見を取り入れるために、研修会に招く講師を医師会だけでなくそれぞれの専門分野から依頼する等工夫した。			
	(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。			
この事業を推進するためには、医師会・歯科医師会・薬剤師会等の幅広い協力を得ることが必須である。				
7 課 題	この仕事を振り返り、課題を記入してください。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種で連携がとれるよう顔の見える関係づくりや、在宅医療・介護連携を推進し、最終目標である地域包括ケアシステムの構築を目指す、いずれも目に見える形として表すのが難しいため、事業の推進状況を実感しづらい。</li> <li>市民に対する在宅医療・介護連携に関する認知度が低い。</li> </ul>			
8 今 後 の 方 向 性	(1) 仕事の方向性(「7 課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など)			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種間で連携がとりやすいよう、会議の運営・環境整備・事業者間の関係性など繋ぎ役を担っていく。</li> <li>市民に対しても普及啓発をしていく。</li> </ul>			
	(2) 上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的に記入してください。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職間の連携を取りやすい体制の構築。</li> <li>市民に対して在宅療養について理解を深めることができる機会を作っていく。</li> </ul>				
(3) 改革・改善案による期待成果				
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成果	成果を向上させる。		経費	仕事の経費を増加させる。